

2019年9月21日 9月24日小補

百華堂撰『渡天物語』（安永七年〔1788〕）に就いての研究を望む

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

早稲田大学古典籍総合データベースで公開されている百華堂撰『渡天物語』（安永七年〔1788〕）の写本は近世日本のアジア観とくに朝鮮観を知るうえで重要な作品ではないかと思う。CiNii Articles 及び国立国会図書館サーチ（記事・論文）で〈渡天物語〉を検索したが、この作品名にかかわる専論は見つからなかった。もちろん単行本の論文集の中に関係論文が含まれている可能性はあろうが、そこまでは調べが及ばない。

百華堂撰『渡天物語』は異色の天竺徳兵衛ものである。天竺徳兵衛という人物には謎が多いが、一応実在の人物とされている。朱印船貿易家としてシャムにわたり、その仏教寺院を天竺のそれと勘違いして記録を残した。その写本は複数残り、江戸期のいくつかの著作にも収められるなどしている。朱印船貿易家としての天竺徳兵衛のお話（実話もフィクションも）は昭和初年の南進論の時代まで連綿と出版されたが、それとは別に蝦蟇の妖術使いとしての天竺徳兵衛物語も広く流布した。後者の系列の嚆矢は、浄瑠璃の近松半二『天竺徳兵衛郷鏡』（1763）であり、歌舞伎の鶴屋南北『天竺徳兵衛韓嘶』（1804）が継承した。ここでは天竺徳兵衛の貿易家としての側面を希薄化され、徳兵衛の父が朝鮮王の臣下であり、朝鮮侵略の恨みを晴らすために父から継承した妖術を使って謀反を起こすという話になっている。その後、朝鮮の恨みの話は必ずしも継承されず、蝦蟇の妖術の方が話題を呼び、山東京伝『敵討天竺徳兵衛』（1807）（→『天竺徳瓶物語』）などは蝦蟇の妖術のネタは採用しているが、朝鮮関係者という設定は採用していない。

百華堂撰『渡天物語』はそれらの天竺徳兵衛ものとは全く異なる。ここでは徳兵衛は単なる船乗り・商人ではなく、もともと武家の名門であったが町人に零落したという設定で、再び武家奉公して功なり名を遂げたのち、朝鮮、中国を経由して陸路で天竺の祇園精舎に参って帰国するお話となっている。渡唐の手引きをしたのが朝鮮通信使の一員であり、まず朝鮮に渡った後朝鮮国王の要請とともに中国を攻め、中国では武功によって地方長官に就任、その後周りに疎まれて官を辞して天竺に向かうという梗概である。（なお、作品中の宝永4年〔1707〕の大地震と津波の描写は文学とはいえ災害史的に重要なものではないかと思う）。このような大陸進出系の天竺徳兵衛の話を継承したものとしては、管見の限りでは、巖谷小波「天竺徳兵衛」『小波お伽全集 11』&『同 14 伝説物語』（1933年）がある。

ここに見られる想像力（日本人の武勲・徳性を過度に讃え朝鮮や中国の軍事力を過小評価

しているように見える、あるいは秀吉の出兵を肯定する)が後の日本の大陸進出の心理的な下支えになった側面もあるのかもしれないが、徳兵衛が渡唐のために取り入った朝鮮通信使の一員とのその後の信頼関係や徳兵衛の大明皇帝への忠誠、天竺への崇敬などの描き方から大陸アジア諸国を尊重する態度が確かに見られることがむしろ注目に値するように思う。

この写本の末尾に跋が付されているが、そこには、「近年歌舞伎芝居などに徳兵衛大善人成を悪となして」という不満が記されている。この著作は、近松半二『天竺徳兵衛郷鏡』(1763)や鶴屋南北『天竺徳兵衛韓嘶』(1804)に対する反発から作られたものとみられる。もっとも百華堂撰『渡天物語』の序に記された成立年は1788年であるから、まだ歌舞伎の台本はできておらず、浄瑠璃作品への不満から作られたものかもしれない。また、歌舞伎に言及のある末尾の跋は鶴屋南北の作品の成立以降に付加されたものかもしれない。いずれにせよ、天竺徳兵衛を朝鮮侵略の恨みを晴らさんとする謀反人として描くことに不満をもつ人がいたことは確かであろう。この跋には「河原非人共の仕業」という差別的な表現も出てくる。被差別者の朝鮮侵略への批判と差別者の秀吉出兵肯定という図式が成り立つのかもしれないが、そこまで読み込むことはないようにも思う。とりあえず天竺徳兵衛を悪人扱いすることをよしとしない人々の系譜が続いているということだけは言えよう。

なお、作者は天竺徳兵衛の同郷人と自称しており、写本中に但州湯島の書肆中屋甚右衛門の印が押されているので、この創作の背景におそらく但馬の「偉人」の名誉回復という意識があったものと思われる。

私としては、過去の秀吉の朝鮮出兵を否定しない江戸の人々も、必ずしも同時代の朝鮮のことを尊重していなかったわけではないということを確認しておきたい。

とエラそうなことを書いたが、私は郷里の家にあった古文書を読もうと思って数年前にくずし字の勉強を始めた若葉マークの者であって、この写本に関しても読めていない箇所が多い。是非ともどなたかご専門の方に正確な紹介をしてもらいたいと思う。